

埼玉育ちのグローバル人

ドミニカっ子と過ごした2年間

第1回「ドミニカっ子に会いに行こう！」

(巡回活動編)

青年海外協力隊 2016年度2次隊 長江 茉莉子



埼玉県マスコット「コバトン」



私が隊員として派遣されたのは、カリブ海に浮かぶ島にあるドミニカ共和国。カリブ海と大西洋に囲まれた美しい島国には、ヨーロッパや北米から多くの観光客が訪れます。第2の都市サンティアゴは、スペイン統治時代の名残がある旧市街や街の中心にモニュメントがそびえ立つ美しい地方都市です。しかし、その一方で住む地域で貧富の格差が分かる格差社会を抱えています。



街のシンボルとして愛されているモニュメント

私の活動先は NGO 団体が運営する児童福祉施設「コメドール」。サンティアゴ市内の貧困地域で、貧困層の子ども達に食事の提供や教育支援を行っています。サンティアゴ市内の公立小学校には図工の授業が無く、貧困地域には小学校に通っていない、通えない子

がいるのが現状です。

その為、サンティアゴ市内の貧困地域にあるコメドールを巡回して、「子ども達や保育者に図画工作を教えて情操教育支援をする」事が私の活動目的でした。

初めてのドミニカ共和国での単独巡回。緊張のドキドキよりもドミニカ共和国の子ども達に会えるワクワクの方が強く、施設の視察に行く日はずっとニコニコ笑っていた…と後日、同僚達に言われました。

最初は NGO スタッフと一緒に各施設に食材を運びながら、子ども達や保育者（先生）にご挨拶。初めて見る日本人に「Chinaー！！（中国人）」と驚く子や緊張して固まる子等、反応は様々。全コメドールの子ども達の共通点は「私の髪を触って引っ張る」こと。縮れ毛が多いドミニカっ子にとってはストレートヘアーが珍しく、「すごい！髪がサラサラだ。本当に地毛なの？」と髪を触って引っ張って地毛である事を確認する子ども達。触った後は綺麗に髪を整えてくれるので、気配り上手な子ども達でした。

施設への挨拶回りが終わると巡回活動スタート！貧困地域は治安が悪い地域が多い為、グアグア（ワゴン車サイズの乗り合いバス）やタクシーで各地域のコメドールを巡回しました。

コメドールには3歳から11歳の子ども達が通っており、幼稚園と学童クラブが融合したような環境です。小学校では図工の授業が無い為、ハサミや糊の使い方、絵の具の使い方を知らない子がほとんどです。その為、「書

「(描)く、作る」為の基礎スキルを身につける為に、作品作りを通して体験、練習する教室「アクティビティ」を行いました。

最初の作品は「輪飾り」。紙の折り方、ハサミや糊の使い方等の練習をしながら子ども達と作りました。輪飾りはあまり知られていなかったため、子ども達は初めて見る輪飾りに興味津々！オシャレが大好きなドミニカの子供達はコップに輪飾りを付けて髪飾りに。「マリコ！見てみて。お姫様みたいでしょ？」と大喜び！



コメドールの子供達

こうしてオシャレ大好きなドミニカっ子達と始めた図工教室。コメドールの子供達が2年間で予想以上の成長をするとは、この時の私はまだ知りませんでした。



アクティビティで鯉のぼり作り